



# 掛塚への想い

私たちは、掛塚の街を元気にしようと、「みんなと倶楽部・掛塚」という会を立ち上げました。これから様々な活動を通じて住民の皆さまにもご協力をお願いしていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

明治の頃には「小江戸」といわれていた掛塚も、今は祭りの運営を担う若者の数も減少し、屋台の引き回しも危うくなっています。また、高齢者世帯が増加し、中心部の空洞化が目立ち、商店の数も年々減少していついています。

そのような流れに何とか歯止めをかけ、街を活性化させたい。掛塚に移り住む人を一人でも増やしたい、出た人を呼び戻したいと切に思います。そのためには、子どもたちがこの街に住んでいたいと思えるような、魅力的な街を作っていくことが重要です。湊町として繁栄した歴史があり、素晴らしい祭りが継承され、落ち着いた街並みが残る掛塚は、他の地域にない、誇るべき要素をたくさん持っている街です。

中でも旧津倉邸は、掛塚が栄華を誇った時代の廻船問屋のよすがを残す、この街のシンボルであり、また元氣な街を作るための格好の素材です。この文化財を、私たちが有効に活用していくことで、ふるさと掛塚に対する誇りや愛着がより一層育まれていくことを期待しています。

湊町掛塚が育んだ貴重な文化財を守り、誇れる郷土の文化遺産として後世に引き継ぐことができるよう、旧津倉邸をはじめ、掛塚の街並みの維持管理に協力し、住民による住みよいまちづくりの寄与したいと思います。

会長 池田藤平



## 直近の予定

- 6/11 講演会と懇談会
- 7/9 旧津倉邸除草作業

## こんな活動を考えています

掛塚の街の成り立ちや先人の苦勞を学ぶとともに、旧津倉邸を中心とした、掛塚の歴史資産を有効活用し活氣ある故郷の創生を目指したいと思っています。

手始めとして、学習会と旧津倉邸の除草作業を毎月交互に実施していきたいと考えています。

除草作業については、今年度は5・7・9月の第2土曜日、午前9時から1時間程度の実施を計画しています。この作業には、広く住民の方々の参加を募りますので、多くの方々のご参加をお待ちしております。

# ちよつといーけ?

温故知新！掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組（のりこ & さゆり）がインタビュー。記念すべき第一回は、田町の霧谷康子さんと横町の松山民枝さんをインタビュー。

## 霧谷康子さん(田町)つるや酒店の看板おばあちゃん



Q 昔のつるや酒店について教えてください

戦後手に職がなくなつてつるや酒店を継ぐことを決めただけでまさか自分が酒屋をすることになるなんて思ってもみなかった。あの時代は強くなければやっていけなくてお酒を無心に来たチンピラを啖呵切つて追い返した事もあったのよ。足はガクガク震えてたけれどね。(笑)

昔は店の一角に畳をひいてあってね、近所のお百姓さんが仕事帰りに『すいません、一杯飲ませてください』と、ほっかぶりをしたまま寄つてくれてね、皿の上のコップに溢れそうなお酒を美味しそうにすすって。テーブルの上にはらつきようと梅干と漬物を置いていたのを覚えてるわ。

Q 康子さんもお酒を飲まれると聞きましたが?

ワンカップを毎日八分目飲むの。それがね、元氣の秘訣だと思うの。(笑)

Q 学校の思い出を教えてください

小学校高学年の夏休みに、こまんば(駒場)の松林で波の音を聞きながら勉強会をしたことがあって...。それがとても楽しかった。

Q えっ、勉強が楽しかったんですか?

いえいえ、勉強は楽しくないけど海で泳いだり遊んだりした事が楽しかったの。母が厳しくて遊びに出掛ける事も無かったから。

Q 子供の頃の心に残っている思い出はありますか?

横町の平野小夜ちゃんと遊ぶのが一番の楽しみだった。(笑)

Q どんな事をして遊んだんですか?

何って...本を読んだり山桃の木のブランコで遊んだり...、何もなくても二人でくっついてるだけで良かったね。二人で遊んだ光景は今もはっきり覚えてるよ。裁縫が上手な小夜ちゃんが作ってくれたショルダーバックはいまでもどこへ行くにも持って行くのよ。(小夜さんは今年二月にお亡くなりになりました)



戦後お店を切り盛りしながら子育てをしてきた康子さんは聡明でとてもチャーミングな方でした。月に一度、女学校時代の友人と集まり昔話やこれからの事を話す時間を楽しんでいるそうです。貴重な写真も見せていただきありがとうございます。(by のりこ)



## 松山民枝さん横町の「たみえちゃん！」

Q 日々の生活はどんな風に過ごしていますか?

80歳まで近所の工場で働いて、今はお百姓!



Q 昔の町並みで記憶に残っていることはありますか?

昔の掛塚は商い屋がたくさんあって、賑やかだった。とん屋・みなと屋・竹新・五九・シオヤ・肉屋・自転車屋・田中屋...用品店もあって、学校の帰り道にショーウィンドのペレ帽や洋服を眺めながら帰って来るのが楽しかったやあ。夜も今と違って遊樂街だったからね。横町にも和田屋、はんべん屋、豊屋、電気屋、まんじゅう屋、雑貨屋、銭湯、新聞屋、魚屋、味噌醤油屋、うどん屋、正木屋、尾崎さんまでの間にも遊郭が数件もあったもんで綺麗な着物を着た芸者衆も見れたよ。

Q 昔の暮らしはどうでした?

家族を養っていたから、働き詰めで働いたよ。だけど、昔は隣近所みんな親類みたいな、心やすく付き合っていたから何かあれば、すぐに皆んなが心配して手伝ってくれた。昔は親しみがあって本当に良かったに。

Q 念仏

昔は今の衆みたいに歌謡曲を聴くとか楽しさがなかったから、リヤカーを引きながらでも「念仏」だっただよ。今の衆の歌謡曲が、わしらにとつての「念仏」だった。毎日うたつてるから、自然に覚えちゃったよね。

Q お祭りはどうでした?

わしら女の衆は、道躰子を屋台の前でやったよ。揃いの浴衣で肩に赤いタスキで花笠かぶって...大勢だったに。

Q 困っている事はありますか?

掛塚に商店がないから、年寄りはいり物に行けない。昔みたいに、商店があれば歩いて行って、自分が欲しい物、食べたい物を選んで買える。そしたら楽しいよねえ。たまには年寄りだって、友達とお昼に好きな物を買って食べたいに。

そう話してくれた民枝ちゃん。キラキラしてました。おばあちゃんになつても、私たちと同じように「友達とランチしたい」んです。でも「行けない」現実。掛塚の街に商店があればまだよかったのに...。運転もできない。自転車も乗れない。それは、私たちもいつか「行く道」。掛塚の街がお年寄りに子供にも「優しい街」になるように、何ができるか考えていきたいなあと思ひました。(by さゆり)



# みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka



## 創刊号

- P1 掛塚への想い
- P2 こんな活動を考えています
- P3 直近の予定
- P4 旧津倉邸探訪其の一
- P5 旧津倉邸写真館
- P6 津倉邸の草刈り奉仕作業報告
- P7 ちよつといーけ?
- P8 霧谷康子さん(田町)
- P9 松山民枝さん(横町)

みんなと倶楽部  
My hometown Kaketsuka



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、佐藤喜好
- 編集 小栗宏之、霧田茂巳、のりこ & さゆり

## お問い合わせ

ご興味のある方は  
下記までご連絡ください!

☎ 0538-66-4775 (名倉)



伊豆石で作られた蔵



津倉邸鳥瞰図



津倉氏先祖肖像画

# 旧津倉邸 写真館



福田半香、平井顕斎、山下青厓によるふすま絵



奥座敷



石灯笼



5/14

## 旧津倉邸の 草刈りをしました

5月14日(土)晴天で汗ばむほどの気温の中、今回の作業では主に敷地の西側に植えられているつつじの木の下の除草を行いました。30名のボランティアの方に参加していただき昭和の懐かしい香りが残るお庭がともきれいになりました。

お忙しい中本当にありがとうございました。

次回は7月9日(土)の予定です。皆様、ご協力のほどよろしくお願ひします。



平成二十六年十一月、磐田市掛塚砂町の旧廻船問屋「津倉家」の土地・建物等が磐田市に寄付されました。「旧津倉邸」は江戸から明治にかけて栄えた「掛塚湊」の当時を知る貴重な建物です。

明治の中期に建築されたという母屋は寄棟造り木造二階建てで材木商(津倉材木店)も営んでいた津倉家らしく、多種多様な良材を用いて地元の大工により建てられました。

また、昭和十年(一九三五年)増築の洋室には、高級な外国製のガラス戸や皇族の為に製作されたと伝わる応接セットが当時のまま置かれています。

母屋の玄関を入ると太さ一尺以上の樺の「大黒柱」が目にとまります。美しい木目の通し柱です。

この「大黒柱」、二階に上がると節穴を用いてこんな粋な工夫が。「大黒様」です。



柱の大黒様



法被

廻船問屋でもあり、材木商でもあり、両替商でもあった「津倉家」。商売繁盛の福の神として大切にお祀りされていたのでしよう。

他にも浜松市天竜区水窪町の山住から伐り出されたといわれる杉材の天井や樺、檜、松の材を用いた廊下、山桜の樹皮等を使った茶室等、現代ではしつらえることが難しいような良材がいたるところに使われています。当時の職人の優れた技術特に目につかないような所に(と)共に「旧津倉邸」見どころの一つです。

# 旧津倉邸探訪◆◆◆其の一

## 廻船問屋 津倉家の歴史

- 江戸時代 ~明治初期
  - 有力な廻船問屋 (屋号：江戸屋) 「掛塚湊」において幕府の御用財等の回漕や木材の取引にて財を成す
- 明治 22 年頃 (1889 年)
  - 「津倉邸」新築
- 明治 26 年 (1893 年)
  - 津倉家 (江戸屋)・津倉勘六氏 所有船 袖ヶ浦丸・津吉丸・寿丸・盛慶丸・宝生丸(5艘)
- 大正時代以降
  - 東海道線開通による「掛塚湊」利用の激減 廻船業より鉄道による材木等の取扱いが主となる (浜松市中ノ町周辺の製材所)
- 昭和初期
  - 津倉邸 離れ家屋を「関家(篤屋)」へ曳家にて移動
- 1935 年
  - 洋室の増築 高級な外国製のガラス(チェコスロバキア製)戸や皇族の為に製作されたと伝わる応接セット
- 2014 年
  - 土地・建物等が磐田市に寄付される

奥の座敷には、福田半香(一八〇四〜一八六四)、平井顕斎(一八〇二〜一八五六)が描いた山水画や浜松市出身の山下青厓(やましたせいがい・一八五八〜一九四二)の水墨画の襖があり、二階には様々な短冊、扇画などを貼った襖もあります。

庭には伊豆石の蔵や石燈籠、井戸等があります。また二本の「なぎの木」が植えられており、廻船業を営んでいた「津倉家」でも海の安全航行(なぎの木)の風ぎを祈り縁起を担いで植えられたものと思われる。

この様に「旧津倉邸」には古き良き時代の「掛塚湊」の面影がたくさん詰まっています。まだまだ紹介しきれない魅力がありますので、次回から少しずつ詳しくお伝えできればと思っています。

